

## 選考結果と総評

選考委員会 委員長 小松 尚

人にやさしいまちづくり賞の審査委員を引き受けて3年目になり、今年は委員長を仰せつかりました。そこでこの機に、この賞の意義を改めて考えてみました。

「人にやさしい」とは、どういうことでしょうか。バリアフリーやユニバーサルデザインに関する考え方や基準を満たすことは、既に必要条件であっても十分条件ではなさそうです。つまり、既に最低限確保して欲しい条件になっているということです。その「人にやさしい」に続く「街づくり」はどうでしょう。質の高い公共空間や公共施設の実現だけでなく、取り組みが正しく理解されることによって、広く共有、普及できたもの、もしくはその可能性や潜在力を秘めたものになると考えます。

このような問題意識を持ちながら、今年の審査に向かいました。今年は20件の応募をいただきました。応募いただいた皆さまには、心より御礼申し上げます。昨年と比べると応募数はやや減少しましたが、書類による1次審査と現地審査やヒアリング調査による2次審査は、県内各地での取り組みの間口と奥行きを確かめ、共有する充実した時間となりました。

その中で厳正なる審査の結果、「大口町立大口南小学校」を特別賞に、「豊田市立四郷小学校・豊田福寿園地域包括支援センター」と「岡崎市医師会はるさき健診センター」を賞に選定しました。特に「大口町立大口南小学校」は、学校支援と生涯学習を両立させようとする活動と、それを実現するために設計された学校建築との見事な相乗効果が見て取れ、今後の展開が大いに期

待でき、同時に他の学校や地域にも示唆する点が多いと評価され、特別賞を授与することになりました。

本賞は、「もの」と「活動」という2つのカテゴリで募集をしていますが、良い活動にはそれにふさわしい場所が必要です。そして、その逆もしかりです。両者が響き合う着実な取り組みが「人にやさしい街づくり」になっていくと私は考えています。

各地で意欲的に取り組まれている皆さまの更なるご活躍を期待するとともに、成果が生まれましたらぜひ本賞に応募していただき、到達点と今後の展望を推し量っていただきたいと思います。